

2023 年度 事業報告

施設名 玉堤つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 13 人 利用者数 12 人

(1) 障害支援区分

区分 6	10 人	区分 5	2 人	区分 4	0 人	区分 3 以下	0 人
計	12 人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1 級	2 級	3~7 級	なし	
愛 の 手 帳	1 度	1 人				1 人
	2 度	4 人				4 人
	3~4 度		1 人			1 人
	なし	6 人				6 人
計		11 人	1 人	0 人	0 人	12 人

(3) 年齢、性別

10 代以下	0 人	40 代	4 人
20 代	1 人	50 代	2 人
30 代	3 人	60 代以上	2 人
計			12 人

男性	7 人
女性	5 人
計	12 人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

- ・ 開所日数 243 日、延べ利用者 2517 人、一日平均 10.4 人となった。年間利用率 79.3% (前年度比-5%) と大幅に減少している。60 代を迎えた利用者が 2 名おり、全体的に平均年齢 (44.3 歳) も上がってきている。
- ・ 利用定員の空き 1 名分に関して、問合せはあったものの見学や実習には至らず、新規利用者の入所とはならなかった。
- ・ 5 月に新型コロナウイルスが 5 類に移行後、利用者 6 名、保護者 3 名、職員 1 名と昨年度よりも罹患者が多く発生したが、緊急時の対応を見直し・再確認しつつ事業を継続した。
- ・ 欠員していた女性職員の新規採用を実施し、支援体制を充足することができた。
- ・ 新型コロナウイルスに罹患等、体調不良にて利用者の体力や機能低下が顕著に見られた。少しでも機能維持につながるよう、活動や行事等に興味を持てるよう実施した。
- ・ 昨年度からグループホームの利用を開始した利用者は、自宅とグループホームの両拠点での生活が安定してきており、自分自身で考えて意見をまとめ、相手に伝えようとする力がついてきている。他にもグループホームへの入所希望者が増加しており、様々なサービスを活用できるよう今後も支援していく。

*行事等

4月	オリエンテーション (3・4日)
5月	誕生会(30日)、自衛消防訓練 (31日)
6月	誕生会(2日)
7月	誕生会(19日)、うめとぴあ (25日)
8月	暑中お見舞い(1日)、誕生会(22日)
9月	全体レク (22日)
10月	うめとぴあ (10日)、誕生会(24日)
11月	玉川福祉フェスティバル (18日)、区民ふれあいフェスタ (27日)、誕生会(29日)
12月	誕生会(19日)
1月	オリエンテーション (4日)、誕生会(23日)
2月	東北沢との交流会(9・13日)、誕生会(27日)
3月	全体レク(8日)、誕生会(26日)、東北沢との交流会(28日)

*1日の基本プログラム

8:30	職員会議
9:30	利用者来所
10:10	朝の会、日中活動 (途中水分補給)
11:00	トイレ・食事準備 (職員昼食)
11:30	前半昼食・歯磨き・トイレ
12:10	後半昼食・歯磨き・トイレ
13:00	昼休み
14:00	自由時間
14:30	帰りの会
15:30	利用者退所
15:45	職員会議、館内清掃・消毒

*日中活動

・ 染め	布に動物や食べ物等の型抜きで糊を置いてデザインし、染料で染め、巾着等の製品を作成した。販売会も少しずつ開催されたこともあり、直接手に取っていただき巾着やトートバックを気に入ってもらえる機会が多かった。
・ マーブルング	水を張った容器に染料を落とし、その上に用紙を浮かせ、幾何学的な模様を写す。ポチ袋等として商品化。年末に向けてポチ袋の購入希望が多く見られ、ペースアップで作成することもあった。
・ 体操	ストレッチやマッサージ、ラジオ体操等を実施した。理学療法士には電動車椅子新調の方のずり落ち防止の姿勢やクッション素材等アドバイスを受けた。
・ COM	カードや iPad 等の様々なツールを使用し、コミュニケーションの方法や技術の向上を図った。言語が発生しにくい利用者は「えこみゅ」というアプリの音声機能を使用し、相手に意思を伝えたり、朝会の進行をしたりと活用していた。
・ 美化	所内の整理、備品の在庫チェックを中心に実施した。コロナ禍以前から使用しているパーテーションを一新し、不用品の処分等も適宜行った。
・ 広報	広報誌の編集と作成、発送作業を実施。担当利用者が企画を考え、文章依頼や編集後記を書き、役割をもって積極的に実施していた。Facebook の確認も毎月実施できた。
・ 映画会	誕生月の利用者のリクエストによる、映画・アニメ・風景等の映像鑑賞。新しいプロジェクターを購入したことで大きな画面でスムーズに映像を観られるようになり、昨年度よりも一層楽しめるようになった。
・ カラオケ	利用者のリクエストに沿った曲や映像を流し、手拍子や拍手、楽器を鳴らして楽しんだ。
・ ミーティング	活動内容の検討等、様々な意見を交換し合った。アフターコロナ後の意見も色々と挙がっていた。
・ フリー	各自のやりたいこと (絵画・TV視聴等) を可能な範囲で実施。徐々に周辺への散歩も楽しむ方が見られた。
・ ゲーム	今年度新たに「バン抜き」や「神経衰弱」、「人生ゲーム」や「オセロ」、「某番組アドベンチャーゲーム」など卓上で、主に頭を使ったゲームを実施した。

- ・ アート 本物のような幹から枝葉を広げ、四季折々の作品を作成して装飾した。また、大きな模造紙に利用者の写真とともに花火大会の花火を貼り付けたり、雪合戦を表現したり、利用者が体感しているような展示の工夫もみられた。

(2) 地域交流

- ① 規模を縮小しての「YK会のクリスマス会」に招待され、昨年同様職員が参加した。
- ② 「玉堤小フェスタ」では、言語の発声が難しい利用者が多く当所や障害理解促進のため、コミュニケーションのツールとして利用者の文字盤やトーキングエイド等の紹介を展示した。昨年同様、ミニ手話体験コーナーを実施した。
- ③ 玉川支援ねっと」ではオンライン会議を継続しつつ、アート作品の展示を玉川支所内にて行い、より多くの方々に見ていただけた。職員交流研修も4年振りに対面にて実施された。
- ④ 「うめとびあ」や「ぐるぐるキヌタ」、「区民ふれあいフェスタ」での販売会も好評だった。
- ⑤ 一人暮らしをしている利用者は講師として、小学生の前で生活について話す機会もあった。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ① 今年度からは対面での面談を実施した。来所が難しい保護者には電話連絡や家庭訪問をしたり、ケア会議にも参加したり、関係機関との情報共有や情報交換も積極的に行った。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ① 介護等体験生(教職員養成課程)、田園調布学園、セントメリー学園(年2回)等の交流はなかったが、夏のボランティア体験(夏ボラ)や駒沢大学ボランティアサークルの学生との交流は実施できた。
- ② 電話での問合せはあったものの見学者や実習の希望者はいなかった。

(5) 危機管理

- ① 猛暑で職員室内の冷房が止まってしまうことがあり、職員各自で体調管理に努めた。また、食堂内の冷房にカビが発生し3週間程使用できなくなり別室での緊急対応をした。建物が古く故障箇所が多く見受けられた。消防設備点検時、以前から故障していたブラインドは交換してもらえた。
- ② 送迎バスの接触事故(未遂)や帰りの迎えのヘルパー遅れなど業者によるトラブルがいくつか見受けられた。直接トラブルを解決することはなかったが、緊急時に誰がどのように対応するのかを検討していく。
- ③ 台風(9/8)や降雪(2/5)の天候不良時に保護者の協力の下、安全対策も実施した。

(6) 職員研修の実施

- ① 法人職員全体では、ハイブリット形式の「ご縁の会」に加え、対面での「虐待防止」「メンタルヘルス」「腰痛予防」の研修を実施した。
- ② 「令和5年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修」、「令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の概要」を中心に世田谷区福祉人材センターの研修等受講した。
- ③ 新入職員は個別育成プログラムに沿って、新人研修を実施した。

(7) その他(苦情・事故等)

- ① 事故…0件
- ② ヒヤリハット…9件(昨年度11件)
送迎場所の間違い→口頭だけのやりとりではなく、必ずボードに記載し、予定表にて確認
販売品の値段ミス→値上がり前の商品と値上がり後の商品が混在しないよう整理・確認
ナースコール対応ミス→必ずノックと声かけをし、応答があってから入室するよう確認
- ③ 苦情…0件

3 重点目標への取り組み・成果

① 利用者の意向に沿った安定した生活基盤

昨年度からグループホームでの生活を始めた利用者は、自分自身の考えを整理することで不安定になることが少なくなってきた。他にもグループホームの入居希望の利用者が多く、新設情報を伝えるだけでなく、利用者自身がどのような生活（食事・洗濯・外出など）を送っていきたいのか具体的にイメージしやすいように支援した。また、60歳を迎えた利用者も2名おり、体調を整えながら通所することが多くなった。

② 活動や行事の再構築

新型コロナウイルスの罹患に限らず、体調不良や負傷する職員が何度か発生したため、既存のやり方に捉われず、利用者の安全第一を念頭に無理のない活動プログラムを工夫した。活動内で散歩や買い物に出かける機会も増え、外出を希望されない方もいるため利用者それぞれの意向を確認しつつ実施した。また、販売会や交流会の機会も増えてきて、次年度の行事を楽しみされる方も見受けられた。

③ 職員支援体制の強化

法人事務局と連携しながら、欠員していた女性職員を充足することができた。新入職員の体調や習得ペースに合わせて育成研修を実施し、徐々にスキルアップをしながら、利用者や保護者との信頼関係を築くことができつつある。他事業所への研修も実施し始め、無理のないよう次年度も継続していく。